

あっ！そうだ

ザリガニさんがたいへんだ！

社会福祉法人芽豆羅の里 芽豆羅保育園（大分県宇佐市）[5歳児]

<事前の様子> 12月、ザリガニに興味をもった子どもたちは、保育園近くの溝にいるアメリカザリガニを、4、5歳児で初めて捕りに行った。ザリガニのことを知っているという子どもたちが「どのように探したり捕ったりするのか」把握するために保育者は見守った。

	子どもの姿	青文字=発想・想像	援助(♡) 読み取り(※)
捕まえる	<ul style="list-style-type: none"> ・「泥の中だよ」「ハサミで穴を掘って中にいるよ」「寒くなったので穴の中でじっとしているよ」「きっとおとなしくしていると思う」など話しながら、ザリガニを探す。 ・最初に見つけたグループが「ザリガニを見つけたぞ!」と叫ぶ。 ・各グループが必死になり、次々と「見つけた! 捕れた!」と歓声上がる 		<ul style="list-style-type: none"> ♡ザリガニはどこにいるのか尋ねる。 ※泥の中にいることや冬で寒い時のザリガニはじっとしていることなど知っていることから想像して捕っている。
飼う	<ul style="list-style-type: none"> ・園児全員「ザリガニを保育園に持ち帰り飼いたい」と、保育者に願う。 ・「できるよ」「ダンゴムシで、できたよ」「カブトムシでもできたよ」と言う。 ・「わーい!」と歓声を上げて喜ぶ。 ・4・5歳児全員で、ザリガニを飼育するため、ザリガニ4匹と赤ちゃんザリガニを入れて持ち帰り、各クラスの水槽に配る。 ・「水草や小さな魚(いりこ)、ザリガニの餌をあげればよいと図鑑にあったよ」「ザリガニさん、水草をたくさん食べてね」と話しながら水槽に餌を入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ♡「全員で、ザリガニさんの大切な命を守れるの?」と尋ねる。 ♡しっかり飼育することを確認し、「溝の水と一緒にバケツに入れて保育園に持ち帰りましょう」と言う。
問題を感じる	<ul style="list-style-type: none"> ・4・5歳児を中心に朝から大変な騒ぎになり、「水槽でザリガニが、裏返って泳いでいる」と保育者に報告に行く。 ・「溺れているかもしれない」「いや、遊んでいるかもしれない」「これは、弱っているのかなあ?」「心配だ!」などと話し合い、自分たちの水槽だけでなく、他の学級の水槽のザリガニも見守っていくことに決めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ♡子どもの話を聞き、この事象にどのように対応して取り組むのかを見守る。
考え合う・振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは登園後すぐに水槽のザリガニが死んだことに気付く。「ザリガニさんが死んでいる」「遊んでいたのではなかったのだね」「死にかけていたのだね」「かわいそう!」「一緒に遊びたかったのに!」 ・「お墓を作ろう」「お花とお線香をあげよう」「全員で、お参りしよう」「どこにお墓を作ろうか」「お花畑の所がいいよ」と話し合う。 ・「全員で、どうして死んでしまったのか考えよう」と話し合う。 ・図鑑等で調べたり、ペットショップで聞いたりする。 ・子どもたちは調べたことを出し合い、「ザリガニがなぜ死んだのか」を自分たちで話し合う。 ・<①小さな水槽にたくさんの赤ちゃんザリガニを入れすぎた。②手にとって触りすぎた。③夜が寒かった。④すむ所が変わったストレスではないか。>とみんなで考えた。 		<ul style="list-style-type: none"> ♡しばらく様子を見守る。 ♡「死んでしまったザリガニさんは、どうしてあげたらいいかな?」と問いかける。 ♡「どうして死んでしまったの、かわいそうだよね」とつぶやく。



ポイント

「ザリガニを捕りに行き、園に持ち帰って飼育をする」という活動の中で、子どもたちは知っていることを手がかりにしていろいろなことを想像し、生き物と向き合っている姿が見えてきます。また、その時の友達の言葉から想像し、思いやイメージを共有して仲間意識をもって一緒に飼育をしたり生き物とかかわったりしています。保育者が見守ることで子ども同士が必死に思いを巡らす状況ができました。